



楠の葉

佐賀大学同窓会報 第17号

発行日 2012年7月1日

発行 佐賀大学同窓会

佐賀市本庄町1 佐賀大学内
TEL 0952-23-1253
FAX 0952-25-5700
E-mail dosokai@ai.is.saga-u.ac.jp
ホームページ <http://dousou.ext.saga-u.ac.jp>

編集代表者 江村 正

佐賀大学美術館設置への始動

佐賀大学同窓会会長 宮島 豊 秀

待望の旧佐賀大学と佐賀医科大学の統合10周年記念事業として、事業工程に沿って大学美術館を設置されることになりました。平成25年10月1日の開館を予定されています。また、現在、佐賀県の都市計画に沿った正門道路の拡幅工事が行われており、その終了時に、佐賀大学の正門を整備し、美術館と併せて正門一帯を新しい大学のシンボルとしていきたいと考えられています。

美術館を設置することで、地域の文化・芸術の推進と充実を図ることができ、地方に活気を、市民に文化的豊かさをもたらす切っ掛けになると考えられています。今回の美術館の建設は、大学が市民に愛され、誇りとされる、非常に有意義な機会となります。

設置場所は佐賀大学本庄キャンパス構内正門そばを予定されており、延床面積は1,200㎡～1,500㎡で計画されています。構造は鉄筋コンクリート造または鉄骨造2階建てで、主要施設に展示室、スタジオ、収蔵庫等を有します。美術館正面は全面ガラス張りの近代的なデザインで、屋根のつながった別棟にはカフェや守衛所が入る予定です。

美術館の1階は、壁を移動してフルオープンにすることができ、これからの新しい感性をもった芸術家の先鋭的な作品展示も可能になっていきます。

2階の展示室では、旧制佐高からの歴史を展示するスペースもあり、大学の所蔵する数々の貴重な絵画や蔵書、それぞれの学部のおきの資料などを展示する場所もあります。

佐賀大学のこれまでの歴史と輝かしい未来が大学美術館の中に漸く存在するようになるのです。

4月から佐賀大学美術館設置事業募金の受付が開始されました。佐賀大学美術館は、寄附金による建設を予定されています。

美術館設置事業募金は、美術館設置およびその後の運営資金として有効活用される予定です。本事業の趣旨に是非ご賛同いただき、皆様の格別のご協力とご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

また、視覚デザインを専門とする本学荒木博申教授の監修の下、美術館設置事業募金パンフレットと趣意書等も作られています。同窓生や企業・団体の皆様のもとへ順次配布を行ってまいります。

また、4月から大学美術館のウェブサイトが設置されました。ウェブサイトでは、美術館の平面図や、募金パンフレット・趣意書等を見ることができます。

それに併せて公式フェイスブックページも開設されました。ぜひご覧ください。



平成24年度春期定例役員会

新役員と事業計画、予算を決定

平成24年度春期定例役員会を4月19日(木)、佐賀大学「菱の実会館」で開催し、平成23年度事業報告・決算報告と平成24年度事業計画・予算案を承認した。

I. 平成23年度事業報告

1. 会報発行事業

佐賀大学同窓会報「楠の葉」15、16号発行。佐賀大学広報「かちがらす」21、22、23号を会員に送付。

2. 事業活動

1) 支部総会への参加

会長、理事長はじめ各学部同窓会から出席

2) 佐賀大学との意見交換会

大学から12名、同窓会から13名参加。

3) 校友会への支援

3,100,000円納入

4) 単位提供講座

「キャリアデザイン講座」にOB講師10名

5) 就職支援

平成23年11月30日、内定者との懇談会

6) 第19回佐賀県青春寮歌祭

平成23年11月19日、35名参加。佐賀大学混声合唱団応援参加。

7) 開学祭支援事業

第14回本庄地区大学祭、第33回医学部むつごろう祭に資金援助

8) 懇話会〔クリエイティブ21〕

平成23年7月28日。「総括・懇親会」を開催

II. 平成24年度事業計画

平成23年度事業の継続と充実を図る。

III. 平成23年度決算および24年度予算(概要)

【単位：千円】

科目	23予算	更生予算	23決算	24予算
収入の部				
前年度繰越金	9,217	9,217	9,217	8,275
収納金	16,170	13,849	13,849	14,663
雑収入	2	2	1	1
合計	25,389	23,068	23,067	22,939
支出の部				
運営費	5,300	4,980	4,417	5,880
業務・活動費	11,980	10,765	9,816	10,875
予備費	3,109	7,323	558	6,184
別途積立金	5,000	0	0	0
合計	25,389	23,068	14,791	22,939

平成24年度 佐賀大学同窓会役員名簿

平成24年7月1日現在

役職	担当	氏名	卒業年学科	役職	担当	氏名	卒業年学科	役職	担当	氏名	卒業年学科
会長		宮島 豊秀	教育・35小	理事	広報	光富 勝	農学・51農	理事	庶務	白武 義治	農学・51農
副会長		宮尾 正隆	教育・36美	〃	広報	吉賀 豊司	農学・H2園	〃	情報	今野 厚子	教育・51中
〃		石丸 新	文理・44法	〃	資料	江口 信義	教育・36中	〃	情報	荒木 弘幸	経済・57管
〃		枝國源一郎	医学・H3医	〃	資料	江口 洋一	経済・48経	〃	情報	加藤 明	医学・63医
〃		秋永 正幸	理工・45機	〃	資料	古島 智恵	医学・H11看	〃	情報	渡邊 健次	理工・62物
〃		金丸 安隆	農学・43農	〃	資料	深井 澄夫	理工・53電子	〃	情報	米満 潔	理工・60化
理事長		佐藤 武	医学・59医	〃	資料	松永 章	農学・59農	〃	情報	田中 宗浩	農学・H4生
副理事長		井上正一郎	教育・38中	〃	会計	成富 宏	教育・38美	〃	事務局長	深川美砂子	教育・49養
〃		長 安六	文理・44経	〃	会計	木塚 徳男	経済・60経	監事		大庭 敏伸	教育・36中
〃		前山 道明	理工・46機	〃	会計	野出 孝一	医学・63医	〃		園田 章	経済・45経
〃		川副 操	農学・44農	〃	会計	椿 忠彦	理工・53物	〃		松藤 彩	医学・H16看
理事	広報	前村 晃	教育・45美	〃	会計	光武 司	農学・51農	〃		中島 道夫	理工・47化
〃	広報	釘本 頸	文理・44法	〃	庶務	中村 隆敏	教育・61美	〃		松尾 正紀	農学・43農
〃	広報	江村 正	医学・62医	〃	庶務	江口 邦子	経済・48経	顧問		関本 優	文理・31経
〃	広報	田中 正和	理工・48化	〃	庶務	西村 知久	医学・H4医	〃		久間 善郎	文理・37法
〃	広報	磯野 健一	理工・62工化	〃	庶務	穂屋下 茂	理工・49機				

佐賀大学と佐賀大学同窓会との 意見交換会

定例の佐賀大学と佐賀大学同窓会との意見交換会が、4月26日(木)18:30より、ホテルニューオータニ佐賀において開催された。

大学側からは佛淵学長はじめ理事(副学長)、監事、事務局長及び各学部長等、計11名、同窓会側からは宮島会長、副会長、理事長、副理事長及び理事等、計13名が出席した。進行は佐藤理事長によって行われた。

はじめに主催者側として宮島会長の挨拶があり、本同窓会の会員数が52,072名を数えるに至ったこと、単位認定講座「キャリアデザイン」の実施、校友会への寄付、各学部同窓会や支部活動などを含め、行事報告が行われた。

佛淵学長からは、「旧佐賀大学」と「佐賀医科大学」の統合10周年記念事業としての佐賀大学美術館・正門整備を初め、学生への経済支援(かささぎ奨学金)の創設、産学官国際交流セミナーの実施、「佐賀大学プロジェクト研究所」制度の創設(5人以上の専任教員で構成されたバーチャルな研究所で教員の自由な研究活動を促進する)、佐賀大学版IR(大学経営の計画策定等を支援する情報を提供する機関調査)、医学部附属病院の再整備など、さまざまな大学の取り組みが紹介された。

その後、同窓会役員を紹介し、中島理事(副学長)の音頭で乾杯をした。

本年の意見交換会は、各学部からの報告はなく、すべて自由懇談の形式で行われた。

活発な意見交換がなされ、閉会予定時刻となっても、まだ賑やかな会話がが続いている状況であった。枝國副会長が佐賀大学および同窓会の益々の発展を願う旨挨拶を行い、閉会した。



文化教育学部の改革と美術館の建設

1 改革の動き

つい先頃、文部科学省から、県境を越えた大学・学部の再編・統合案が打ち出されました。具体的な内容はまだ明確ではありませんが、現在の一国立大学法人一大学の経営を改め、一法人が複数の大学経営を可能とすること、理系の学部だけを持つ大学、社会科学系の学部だけを持つ大学、文学部だけを持つ大学などに再編すること、医学部や教員養成学部のように共通する目的を持った学部は整理・統合すること、国立、公立、私立の枠を越えた再編・統合をも可能とすることなどが提案され、医学部、教員養成学部、工学部などは本年度中にも改革の検討に着手することが謳われています。

こうした根本的な大学改革の動きとは別に教員養成系学部の改革は、待ったなしで全国的に着手されており、本学でも、学部改革は喫緊の一大課題となっています。

2 学部の現状と全国的な改革の方向

本学部は周知のように、教員免許取得を卒業要件とする、つまり教員養成を主眼とする学校教育課程と教員免許を卒業要件としないいわゆるゼロ免課程の3課程から構成されています。

- ・学校教育課程（教員免許取得必須です）
- ・国際文化課程（教員免許取得義務なし）
- ・人間環境課程（教員免許取得義務なし）
- ・美術・工芸課程（教員免許取得義務なし）

ところで、これまで教員養成学部は本学部と同じようにほとんどが教員養成課程と非教員養成課程を併せ持っていましたが、現在、全国の改革の主流は、

非教員養成課程をなくして学生定員を教員養成課程に再び戻そうとするものです。少子化の時代に意外に思われるかもしれませんが、少子化の問題以上に、今後10年間ほど全国的に教員の大量退職が見込まれており「教員不足」が危惧される状況があるためです。佐賀でも本学部の教員養成数だけで大丈夫かどうか疑問はあります。

3 特色ある大学作りこそ生き残り策

大学が社会的要請に応えることは当然のことですが、他大学と同じことをしていても、大学、学部が生き残れる状況でないことも事実です。そうした意味では、国立大学では東京藝大以外には例を見ない美術館建設は大きな特色作りとなる改革の一つです。

4 学部同窓会本部から2,000万円の寄付

本学部の同窓会役員会では、先日、審議の上、同窓会本部から美術館建設費用として2,000万円を大学に寄付することになりました。各学部同窓会及び大学同窓会本部もこれに追随することになると伺っています。これに同窓生個々人の寄付が加われば美術館建設の推進に大いに貢献し得ると思われれます。

佐大生が気楽に美術館に足を運び作品の鑑賞や発表の機会が持てることは素敵なことです。また、現在、佐賀市では市民芸術祭を準備中ですが、佐大の美術館が地域に開かれ、地域住民にも鑑賞や作品発表の機会を与えるものとなれば、本学や本学部がよりいっそう住民に愛されることにもなることでしょう。

（文責・昭41卒 前村 晃）

平成24年度楠葉同窓会開催！ (H24. 5. 26日)

平成24年度楠葉同窓会が、去る5月26日(土)午後4時から、佐賀駅前「佐賀ワシントンホテル」で各支部代議員のご出席を得て盛大に開催されました。

なお、会議は組織強化の実を上げるため、①総会 ②各支部からの現状報告と懇談会 の2つに分け、最後を懇親会で締めました。

○同窓会総会

初めに石丸新同窓会会長の挨拶があり、この中で会長は、佐大文理学部最後の入学生としてこの会を次の新しい世代に繋ぐものになりたいと述べられました。また、お願いとして、今年は佐賀大学美術館設置事業募金が大学より呼び掛けられており、同窓会としても協力せざるをえない。については7月の会報発送時に募金趣意書を併せて発送したいとして、会員の皆様に格別のご理解とご協力を要請されました。

続いて議案審議に入り、①平成23年度の事業報告及び決算報告が一括で行われ、この中では決算額の対前年比増加が心配されましたが、今後佐大同窓会との重複事業解消を検討していくことで、異議なく了承されました。

続いて②平成24年度事業計画及び予算案が一括審議され、異議なく了承されました。

○各支部からの現状報告と懇談会

その後、今後の組織強化に役立てるため、各支部からの現状と課題の報告に移りました。沖縄のように先輩の指導がうまく引き継がれて和気あいあいと運営の支部もありましたが、いずれも組織拡大に悩み、特に若い会員の募集には個人情報保護の壁がありました。元気な先輩の活用など会員間の繋がりを利用しての粘り強い努力が求められるようでした。

○懇親会

最後に、今後の発展を期して懇親会に移り、まず「乾杯」の音頭を当日参加の最年長者、筑後支部長秋原泰男氏（34・英）にお願いし、学生歌高唱の後、最後に「万歳三唱」を当日一番若手の佐賀共栄銀行支部長池田一成氏（55・管）にお願いして閉会しました。



総会席上、石丸会長挨拶



各支部現状報告

調子なじょでがすや？ 雄勝診療所

雄勝診療所 所長 小倉健一郎（医8期）



宮城県石巻市雄勝町は昨年3月11日の津波災害で甚大な被害に遭い、町はほとんど壊滅。海沿いにあった療養型40床の雄勝病院は、3階建ての屋上まで津波に吞まれ、医師3名を含むスタッフ24名と患者40名が犠牲になりました。無医地区となった雄勝町に診療所を作るため、昨年の9月、卒業以来住み慣れた関西を離れて石巻市に移住し、早や8か月が過ぎました。

何も無い被災地での診療所立ち上げには、赴任当初から様々な困難がありました。診療所の建物が完成する翌々日が開院日と決められていたり、電話番号が開院1週間前になっても決まらない、もちろんインターネットもなかなか繋がらない。スピードが要求される状況下でも役所の仕事は時間がかかる。私自身も初めての公務員、初めての診療所開設と慣れないことばかりなのに、相談できる人材がいない。医療事務も薬剤師もおらず、診療所開設には素人同然のスタッフを率いて受付から処方まで全て自前でやらなければいけない。逆境を楽しむ気持ちがなければ、「俺に丸投げするんじゃない！」と怒って帰りたくなるような仕事でした。開所後は毎日片道50分の車通勤、診療業務の合間に取材、見学、支援者など数多くの来客対応。土日も訪問客対応や、町興しのイベント開催など、開所から半年間は休む暇もない忙しい毎日でした。映画どころか本も読めないような忙しさは仕方ないとしても、慣れない東北の寒さは

ちょっと堪えました。

今は、午前中に外来が20名ほど。内科から整形まで何でも診ますが、外傷と小児が少ないので、アドレナリンのあまり出ない毎日です。午後から石巻赤十字病院からやってくる初期研修医を連れて高齢者宅へ訪問診療に出かけたり、嘱託医となっている特養の回診に出かけたり、来客対応したり、書類書きや雑用など、所長業務は多岐にわたります。

忙しい日々ですが、ここ雄勝は海あり山ありのとても風光明媚な場所ですし、被災地での活動はこれまでになく遣り甲斐ある充実したものになっています。臨床医として培ってきた幅広い経験をプライマリーケアに生かすことができる。そして被災地にやってきただけで、多くの人から感謝されています。

確かに、こんな過疎の被災地にやってくる医師は少ないでしょう。でもそういう場所だからこそロマンが感じられると言えます。ほんとに困っている人のいる場所で働くのが医師の本懐ですね。ただロマンはあっても、高齢者ばかりのこの町にはロマンスがありません。独り身としてはロマンスのない生活は長く続けられないですね（笑）

診療所HP「調子なじょでがすや？雄勝診療所」
<http://ogatsusinryojo.wordpress.com/>

卒業生へのメッセージ

14

—都市工学科の近況報告—

大学院工学系研究科 都市工学専攻 専攻長 外尾 一則



土木工学科、建設工学科、都市工学科の卒業生の皆様、ご健勝のこととお慶び申し上げます。

皆様の卒業された学科は発足以来、拡大や統合を経て、2006年には新たに建築系のコース（建築・都市デザインコース）を設け、土木系のコース（都市環境基盤コース）とともに、2つのコースを持つ学科に変貌しました。社会の変化を読み解きながら、教育体制を変えていく姿勢は、建設、都市工学分野の持つ宿命と言えるかもしれません。

その学科は誕生して早くも“不惑の年”を迎え、人間で言えば成熟の時期に至っています。土木工学科の創立以来学科をリードされてきた経験豊富な教授陣が、この5年間に相次いで退職されました。鬼塚教授、荒牧教授、岩尾教授、渡辺教授、古賀勝喜講師、そして林教授（低平地研究センター）。一方、建築分野には若い優秀な気鋭の教員が全国から集まりました。その結果、建築系の教員数が学科全体の4割近くを占めています。2006年以前に卒業された方は、建築系の教員と学生の多さに驚かれることでしょう。建築系分野は都市工学科の一部ではなく、既に一翼となり、建築系と土木系が融合する教育システムは、全国の国立大学法人の中でも珍しく、時代の先端を行く試みとなっています。

2010年と2011年に、私は学科の就職委員を担当し、多くの卒業生の皆様に直接お目にかかる機会を得ました。特に、土木工学科、建設工学科を卒業された皆様が、建設分野で着実に実績を築かれ、佐賀大学の實力を社会に対して堅実に示されていることを強く感じました。一方、都市工学科出身の皆様が企業や役所の中で既に中堅の位置に立たれている姿は、現役の学生達にとって直近な目標と映り、大変心強く感じました。お会いした皆様から、後輩である学生達を思って下さる気持ちが伝わり、先輩から後輩へとつながる大学の絆の強さを、改めて実感させられました。40年を超える中で培われてきた学科の伝

統は、学科の未来を創造していく英知となり、また皆様の社会でのご活躍は、学科の進むべき方向の羅針盤に対する検証・点検の礎となっています。

コース制を敷いた都市工学科は、伝統を活かし、卒業生の皆さんから支持を得られるような高い教育の質を提供できる学科に成長していくために鋭意改編の努力を怠るものではありません。さらに、学科の改編を基礎として、大学院教育（都市工学専攻）の充実にも努めています。博士前期課程（定員27名）に加えて、近年は博士後期課程の学生が増加しています。2012年4月の在籍学生は留学生19名、日本人7名となっています。実に博士前期課程の定員に匹敵する学生が、都市工学専攻における研究の向上に大きな貢献を果たしています。留学生数が多いことは全国の大学に共通することですが、日本人の数が多いことは特筆したいことです。

都市工学科と関係の深い研究センターの存在についてご記憶のある方は少なくないと思います。このセンターは2011年4月に新しい研究センターへ名称（低平地沿岸海域研究センター）と組織が変わり、さらに大きな研究組織になりました。もともとはバンコックの大洪水の要因のひとつでもある低平地の脆弱な環境問題を中心に研究を行なってきましたが、名称からお気づきのように有明海環境の研究をテーマに加えました。このセンターの別の特徴は、国際研究シンポジウムをアジアの各地で隔年に開催し、年に2回国際ジャーナルを刊行していることです。佐賀大学の研究機関の中でもっとも国際的な活動を活発に行なうセンターです。研究センターの発展は、都市工学科・都市工学専攻にとっても大きな刺激となっています。研究センターと教育及び研究の両面で緊密に連携を取りながら、皆さんが卒業された都市工学科及び都市工学専攻は、社会に有為な高度な人材の育成を目標に、研究と教育の質を高めることに邁進しています。

菱実会総会開催のお知らせ

日時：平成24年9月1日(土) 16:00より

場所：佐賀大学「菱の実会館」多目的室

出席の際は、氏名、学科名、卒業年度を同窓会事務局までお知らせください。

E-mail dosokai@ai.is.saga-u.ac.jp TEL: 0952-23-1253 FAX: 0952-25-5700

大学院農学研究科「農業版MOT」への期待と思い

佐賀大学名誉教授 内田 進

佐賀大学を退職して4年になります。放送大学佐賀学習センターに週2回、佐賀大学に週1回、福岡から佐賀に通っています。さらに、月2回程度、体験農園「はがくれの里」(佐賀市大和町松梅)で10数種類の野菜づくりに出かけ、田舎の雰囲気を満喫しております。

突然、1週間前に同窓会から寄稿を依頼され、思案した結果、退職直前に関わった「農業版MOT」構想を題材として、期待と思いについて述べることにしました。

退職後、「農業版MOT」構想のモデルとした佐賀農業の現状を分析するため、放送大学佐賀学習センター公開講座2009「明日の佐賀農業の在り方を探る」、同公開講座2010「農村の活性化を目指した佐賀アグリビジネスを探る」および同公開講座2011「人間力を培う佐賀の“がばい”雑学講座2011」を開催し、JA佐賀理事、農場経営者、佐賀大学教授、元試験場研究者、市民農園代表者およびマーケティングプロデューサーの講演を拝聴し、「有能な人材(指導者)と“楽しく、明るい農業”を目指すこと」が大切であることを痛感しました。そして、体験農園では野菜を作ってみて、年によって生育が異なることを経験し、農業をビジネスとする難しさをしみじみと体験しました。

有能な人材については、この3年間の経済危機で、1960年代の高度経済成長を支えてきた電機産業、自動車産業および建設産業が軒並み衰退し、大企業からのリストラが始まり、有用な人材が活用できないままの状態になっております。これは日本の大きな損失です。いまこそ、高度経済成長期に働き手を失って衰退した農村がこの有能な人材や体験農園に参加する市民を受け入れて、蘇るチャンスではないかと思えます。

さらに、3.11東北大震災の地震の検証の中で、首都直下型地震や東海、南海および東南海の連動地震の大地震の予測発表があり、若者が都会から田舎へ移動する可能性がでてきていますので、農村へ若者

を取り込むチャンスが到来しております。

一方、経済優先でTPPや日中韓FTAが承認されるようであれば、安価な農産物が大量に輸入され、農業が衰退するという意見もあります。しかし、日本は技術立国でありますので、世界に対抗できる農産物生産システムはあると信じております。例えば、太陽光ファイバーや太陽電池を活用した24時間栽培を可能とする植物工場はその1つではないかと思えます。さらに、農学研究科「農業版MOT」においては、リストラされた有能な人材を再教育し、農業面で活躍できる人材を養成するとともに、画期的な農村・農業ビジョン(例えば、非農家の若者を受け入れる農業法人、農地の共同利用、“限界”集落を防ぐ住宅の集中化、世代間の交流施設、福祉介護施設の充実など)を提案する研究が必要ではないかと思えます。

以上のことから、今後とも農学研究科「農業版MOT」の役割は極めて重要となります。

最後になりましたが、農学部同窓会の益々のご発展をお祈りします。



体験農園「はがくれの里」のひと時

2012.05.17

同窓生の職場 ⑰

佐賀県果樹試験場

佐賀県果樹試験場は、小城市小城町の天山山麓に位置し、平成24年度は、職員23名（うち佐大農学部卒業生8名）が勤務しています。場内では、5～6月はホタルが飛翔するような恵まれた自然環境にあります。

佐賀県における果樹の試験研究は、戦前には、佐賀県農事試験場（現農業試験研究センター）内の果樹部門で行われていました。その後、昭和23年4月、小城町の現在地に佐賀県園芸試験場として創立され、昭和37年に佐賀県果樹試験場に改組され、現在に至るまで佐賀県の果樹生産の発展に大きく貢献してきました。

現在、場内にはカンキツを始めナシ、ブドウ、カキ、ウメなどの多くの果樹を栽培し、栽培技術の確立、新品種の育成、病害虫対策の確立などの試験研究を行っています。

最近の主な研究課題は、温州ミカンの高糖度・安定栽培技術の確立、地球温暖化に対応した果樹の栽培技術の確立、機能性成分を多く含むカンキツ類新品種の開発、減農薬栽培の確立などです。なお、佐賀県は日本一のハウスミカンの生産県ですが、近年、暖房用重油価格が高騰して農家の経営を圧迫していることから、省エネルギー化など生産コスト低減を目的とした栽培技術の確立の試験も行っています。

また、果樹の栽培技術などについて、毎日のように農家、農協の営農指導員や一般の方への相談対応や、必要に応じて、現地に出かけて問題を解

決することも行っています。

農家や一般の方が、気軽に相談しやすいようなアットホームな職場づくりに努めていますので、みなさんも近くにおいでの際はぜひお立ち寄りください。

口木 文孝（農・59卒）



果樹試験場本館



不知火（デコポン）の結実状況

新事務局長あいさつ

佐賀大学同窓会事務局長 深川美砂子



全学同窓会の事務局長として、この4月から仕事をさせていただきます深川美砂子です。鳥栖から31kmを通っています。よろしくお願いいたします。

これまで、佐賀大学の卒業生として学生さんの役に立つことがあれば私を活用してもらっても構わないとの思いはありましたが、行動が伴っていませんでした。

そんな思いの中で出会うことができた仕事です。

先輩諸氏の培われた豊富な知識を基に、卒業生お一人お一人が持っておられるエネルギーを一人でも多くネットワーク化して、少しでも大きなエネルギーになるように、事務局長として小さな体で動き回ってい

きたいと思います。皆様のご協力をよろしく申し上げます。

大学の思い出は、合格発表の日から剣道部の合宿に参加したことと、学内の樹木が植えられたばかりでとても小さかったことです。

略歴は、49年3月に教育学部養護学校教員養成課程を卒業して以来、障害のある子どもの指導を中心に37年間の教員生活を送り、昨年3月末に定年を迎えました。教員生活最後の年からこの3月までの2年間は、リカレント教育の一貫として病弱教育の研究に取り組ましました。

支部だより

鹿児島県支部総会・懇親会

KAGOSHIMA

平成24年1月29日(火)午後2時から、鹿児島市内のホテル「レクストン鹿児島」において、鹿児島県支部の総会及び懇親会が開催された。鹿児島県支部としては初めての昼間の会であった。

本部から宮島佐賀大学同窓会会長をはじめ、8名の方々のご参加をいただき、県内各地から駆けつけた支部会員18名(うち女性2名)の出席のもと、初めての参加者もあり、再会を喜び語らい、楽しい集いとなりました。

総会では、平成23年3月31日に東日本大震災の義援金として鹿児島支部から86,524円を日本赤十字社を通じて送ったとの報告があり、事後承諾された。

恒例により、宮島会長から本部を代表して、佐賀



大学や大学同窓会の近況報告をうかがい、出席者一同、母校を取り巻く教育環境の発展の姿に想いを馳せるとともに、今後の母校の発展に更なる期待を寄せております。

懇親会の席では、出席者それぞれが学生時代の思い出や、人生の喜怒哀楽を含めた自己紹介と近況の報告を行い、酒盃を交わしながら歓談し、少人数を忘れるかのような賑やかな、有意義な懇談会となり、さらに恒例により二次会へと足が進みました。

支部長 上田 耕平 (文理・39年卒)

沖縄支部総会・懇親会

OKINAWA

平成24年2月3日(金)に那覇市内の「天久テラス」において、沖縄支部総会・懇親会が開催されました。当日は、支部会員12名に加え、本部から宮島佐賀大学同窓会会長はじめ、各学部同窓会会長や理事の方々6名のご参加を頂きました。

宮島会長からは本部を代表して、大学や同窓会の近況報告と美術館設置事業募金についての協力依頼があり、その後は恒例の会員の近況報告を兼ねた自己紹介と続き賑やかな懇親会になりました。

特に今年は若い会員の新規の名簿登録と参加があり当支部は一気に若返った感があります。

又、佐賀大学発の海洋温度差発電システムが沖縄県の久米島において世界初となる商用化を想定した実証実験が始まる事に地元では大きな期待が高まっ

ている事などのトピックスに大いに盛り上がり、その場で上原元学長と電話をつなぐ遠隔交流のサプライズもありました。

このように地元で母校の話題が大きくとりあげられると同窓会支部会員にとりましても誇らしく励みにもなります。

支部長 平良 克次 (経済・42年入)



支部だより

「葉隠会」 HAKAKUREKAI

佐賀大学昭和41年卒同期会（福岡近辺在住）

今回「葉隠会」新年会は参加者19名でした。会員の年齢も70歳前後と高齢化してくると申込から会直前までかぜなどの為どうしても欠席者は出てくる。やむを得ない。今回会場は天神テルラビル6階「花万葉」。あの山口油屋福太郎の経営。当社顧問の徳久秀毅君に会場の手配を依頼。当社はこの度、超人気菓子「めんべい」増産の為、原料であるジャガイモ産地の地元の要請もあり北海道の廃校（小学校2校）を取得し工場進出するそうです。彼自身が直接関わっているプロジェクトとのこと。彼からは



更に当日認知症などの予防には①食生活改善 ②有酸素運動 ③脳トレ（高速簡単計算、文章音読etc）④趣味生活（スポーツ、音楽、読書、囲碁、将棋、料理etc）が大事であると説明してくれた。

次回も誰かに貴重な話を聞きたいものだ。

文責 白石 豊彦（文理・41卒）

故 真鍋名誉教授の「偲ぶ会」を開催

佐賀大学名誉教授 真鍋 毅先生は、平成22年11月16日にご逝去されました。〈享年76歳〉先生は文理学部時代には、刑法総論・刑法各論を、文理学部改組後には教養部において憲法を講義されました。講義の内容はもとよりその人柄により多くの学生から慕われました。そのことは定年を迎えた当時の学生達にも今もなお続いているところです。

そこで、次の日程により「偲ぶ会」を開催することといたしました。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

なお、会場の「菱の実会館」は宿泊も可能ですので、ご希望の方は呼びかけ人へご連絡ください。

日時 平成24年9月15日(土) 午後2時より

場所 佐賀大学「菱の実会館」多目的ホール ☎0952-23-1253（同窓会事務局）
（佐賀大学西門近く）

会費 4,000円

宿泊費 3,200円

呼びかけ人

石川 捷治 (42・法) ☎080-3973-5739

中山 淳貴 (43・法) ☎0944-58-2306

池松 美澄 (43・法) ☎092-811-3786

中村 義光 (44・法) ☎098-866-6334

釘本 勁 (44・法) ☎0952-26-0352

吉永 節子 (44・教育) ☎0955-22-6185

恩 師 情 報 ……この一年

平成23年7月～24年6月までの動向を掲載します（敬称略）

定年退職（平成24年）

西晃央	文化教育学部教授	古賀和文	経済学部教授
井上正允	文化教育学部教授	柳田晃良	農学部教授
竹之内裕章	文化教育学部教授	半田駿	農学部教授
中村嘉宏	文化教育学部教授	吉野英弘	大学院工学系研究科教授
塚本明廣	文化教育学部教授	鈴木史郎	大学院工学系研究科教授
岩永忠康	経済学部教授	相川正義	大学院工学系研究科教授
長安六	経済学部教授	古賀勝喜	大学院工学系研究科講師
飯盛信男	経済学部教授		

訃報 謹んでご冥福をお祈りします。

東城國裕	佐大名誉教授（文化教育学部）	平成23年8月16日
田中二男	佐大名誉教授（理工学部）	平成23年12月2日
福元禮一郎	佐大名誉教授（教育学部）	平成24年5月13日

第20回佐賀県青春寮歌祭のご案内

- ・日時 平成24年11月17日(土) 13:00～17:00
- ・場所 佐賀市交流センター「エスプラッツホール」3階

参加ご希望の方は佐賀大学同窓会事務局までご連絡ください。

同窓会の動き（H24.1～H24.6）

H24.1.1 佐大同窓会会報「楠の葉」No16 発行	3.8 佐大同窓会「第9回代表役員会」
11 単位提供講座キャリアデザイン ／講師 島田 達生 氏（農学部）	23 佐賀大学平成23年度学位記授与式
12 佐大同窓会「第7回代表役員会」	4.3 佐賀大学入学式 （学部生1,455名、大学院生・留学生385名）
18 単位提供講座キャリアデザイン ／講師 陣内 章圭 氏（農学部）	12 佐大同窓会「第1回代表役員会」
25 単位提供講座キャリアデザイン総括①・反省会	19 佐大同窓会「春期定例役員会」
29 鹿児島支部総会・懇親会／レクストン鹿児島	26 「佐賀大学と佐大同窓会との意見交換会」 ／ホテルニューオータニ佐賀
2.3 各学部後援会と佐賀大学同窓会の打ち合わせ会	5.9 佐大同窓会会報「楠の葉」No17 編集会議
3 沖縄支部総会・懇親会／天久テラス	10 佐大同窓会「第2回代表役員会」
9 佐大同窓会「第8回代表役員会」・ 「第2回学習会」講師 佐大理事 瀬口 昌洋 氏	6.7 佐大同窓会「第3回学習会」 ／講師 佐大経済学部副学部長 山下 壽文 氏

ご意見
メール
等募集

会報についてのご意見をお寄せいただく場合は、郵送のほか電話またはE-mailでも受付けております。